とことん アオリイカ

ボートで追求！ティップラン

風による流れを利用した釣りなので、積極的に流し変えて狙おう

このボートは双胴（カタマラン）型なので、ナギなら立ってシャクっても安定している。V字底のボートでは不安定なので避けよう

専用ラインが多く発売されている

まだリリースサイズが交じる時期

船の舷を風に当ててドテラ流しにして狙うティップラン釣法。遊漁船で楽しむのもいいが、船外機付きボートで自分でポイントを開拓していくのも釣り人の喜びのひとつだろう。

誘いなどのアクションよりも、どのようなボートの流れ方や、ティップに伝わる感触を手がかりにして釣っていくので、エサ釣りやジギングと違う魅力がある。釣れなくても小型ボートで、気が済むまで流し変えて、とことんティップランを追求しよう。

【タックル】

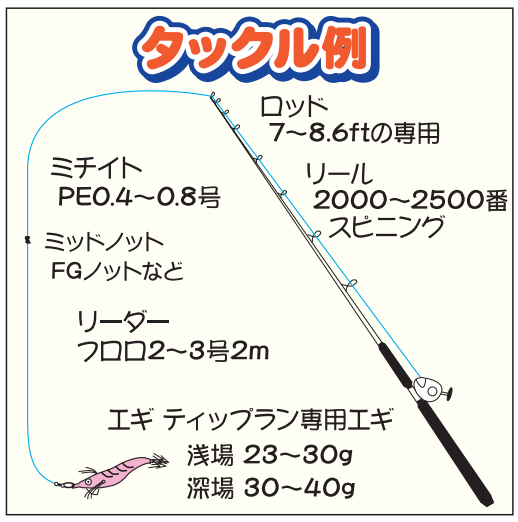
イラストの通りで、ロッドは専用のものを。ミチイトはPEライン0・6～0・8号で、150～200㍍巻ける浅溝スプールを備えたものがトラブルが少なく、経済的。ラインは1㍍ごとのマーキング付きで視認性がよく、タナ取りしやすいものを選ぼう。比重を抑え、潮なじみをよくした「サスペンド」と呼ばれる専用タイプもある。

リーダーはフロロ2～3号を2㍍前後取る。メーンラインとの結節は、ミッドノットやFGノットなど強度を保てる摩擦系ノットで行う。応急的には電車結びでもいいが、極細PEなので、上記のノットを覚えておけば大物が掛かったときも安心だ。

エギは2・5～4号（23～40㌘）の専用タイプ。時期と水深に応じて重さを使い分けよう。

カラーは、ピンクやオレンジなどアピール系をメーンに、日中や低活性時はスケルトンやナチュラル系、寒色系（ブルー、グリーン）などバリエーションを持って用意したい。

通常のエギを使う場合には、10～20㌘の頭にかぶせるシンカーをセットするのも一手。ただし、ナス型オモリなど可動範囲の大きいものを付けるのは避けたい。バランスを崩すだけで、シャクった動きも伝わりにくい。



エギの着底を見逃さない

【アプローチ】

ティップランは、ドテラ流し（横流し）で狙う。潮が速いときや風が強いときには、ポイントが風下になるよう考慮し、船体を風、潮流と平行に流す。

水深10～40㍍が通常攻める範囲。水温に敏感なイカの場合、幅広く探って反応があるタナを集中的に狙おう。

【釣り方】

船べりからエギを下ろし、サミングしながらラインの放出を抑えつつ落とし込む。風や潮の流れが緩いときはチョイ投げして、ラインが斜めになるようにする。

着底を確認したら、リールのベールを返してイトフケを取る。この着底を感じ取れないと、どんどんイトが出ていくので注意。

ロッドのバット部分に重みを乗せるようなイメージで、ワンピッチワンジャークで3～5回シャクり上げる。この時、リールのドラグはシャクると、「ジッ、ジッ、ジッ」とわずかにラインが出る程度に緩めておくとリズムよく行える。

シャクり終えたら、ラインテンションを保ったまま10秒前後ポーズを取る。すると、船が潮や風に乗って流されるため、エギが一定の水深を水平移動する。広範囲を流してイカにアピールし、抱かせるイメージ。

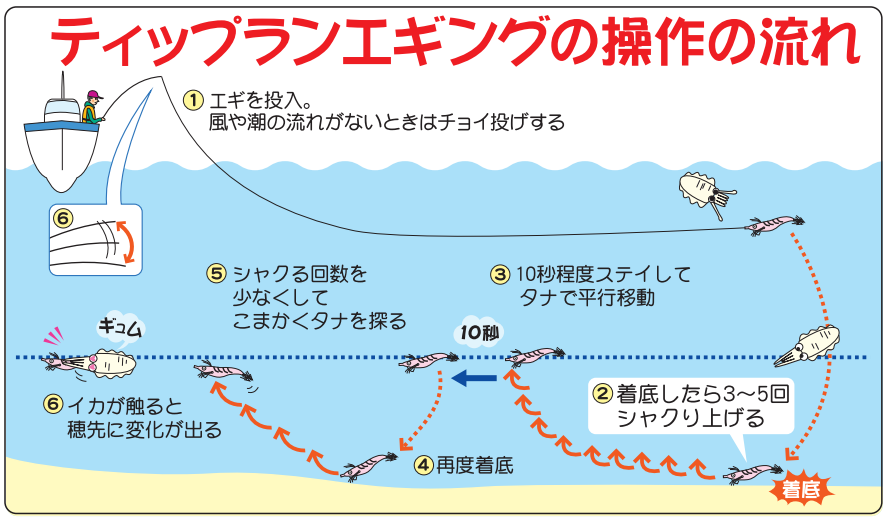
アタらなければ、再度底を取り、シャクる回数を少なくして探るタナを絞り込む。魚探を見ながら、反応に合わせて同じ動作を繰り返す。2～3回行ったら回収して入れ直す。

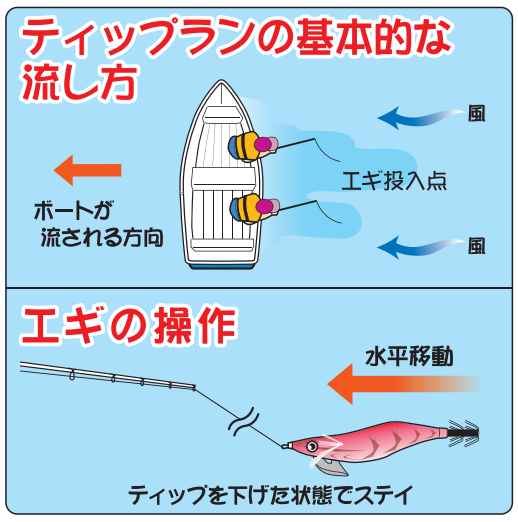
アタリは、竿先のテンションが抜けたり、押さえ込まれるように伝わる。エギが潮流を受けてラインにテンションが掛かっているため、イカの抱き方によってテンションが抜けたり、さらに重みが乗るように変化する。わずかな変化をとらえたらすぐにアワせるようにしよう。

重みが乗ったら、ロッドを45度に保ったまま巻き上げ、取り込みは必ずタモで行い、船外でスミを吐かせてから取り込むようにしよう。

＜編集部まとめ＞

※本頁は9月16日に撮影。逗子のマリンボックス100を利用している筒井知二郎さんで、当日は午前6～8時に乗りがよく、2時間で11尾。まだ新子主体だが今後は良型が期待できる。





愛読者プレゼント

「イカ先生のアオリイカ学」を3人に

相模湾の遊漁船からもアオリイカの朗報が届いている。佐島の相洋丸は9月19日、今季初出船のティップランで狙いトップ12尾。個体数が多く今シーズンはかなり期待できそう。

アオリ好期と並び、イカについて学ぶのもいい機会。成山堂書店では9月に「イカ先生のアオリイカ学　これで釣りが100倍楽しくなる！」を刊行。著者は「イカ先生」こと富所潤さん。これまでにない独自の視点で、アオリファンならずとも役立つ内容が満載。今回は、こちらを愛読者プレゼントとして3人に。

応募方法は官製はがきに、郵便番号・住所・氏名・電話番号及び、①イカ釣りで疑問に思っていること、②お勧めしたいボート店や船宿とその理由、③新聞を購入している場所（店舗名など）を書いて郵送。締め切りは10月6日（金）必着。

▼応募先　〒160－0005東京都新宿区愛住町18～7（株）週刊つりニュース東京本社「イカ先生のアオリイカ学　プレゼント係」まで